

とちぎICT利活用セミナー ICTとソーシャルメディアが拓く十勝のまちづくり ～十勝の経済力・地域力アップのために～

実はここにも



総務省

【日時】平成24年 **2月24日(金)** 13:30～16:30

【会場】 **帯広東急イン** 2F オーク

帯広市西1条南11-2 TEL 0155-27-0109

参加費無料

ドッグイヤーのごとく進歩が目覚ましいICT（情報通信技術）。世界のユーザー数が8億人を超えたFacebook。そして、東日本大震災ではリアルタイムに被災情報を発信し続けたtwitterなど、これらソーシャルメディアは私達のこれまでの情報収集やコミュニケーションの世界を大きくかえつつあります。

ICTやソーシャルメディアが私たちの地域社会やライフスタイルに何をもたらすのか。また、顧客やお客様の声をICTの活用により、どのようにしてマネタイズ機会の創造に結びつけるのかについて、基調講演、事例紹介とともに講師を囲んでの意見交換会を開催いたします。



基調講演

「元気なふるさとづくり ～ICTによる新たな地域創造の可能性～」

株式会社自治体ドットコム 代表取締役 **加藤 晴彦** 氏

1952年生まれ。2000年3月岡崎市情報推進室長を最後に退職。同年4月株式会社クロス・カルチャー設立、代表取締役に。2010年株式会社自治体ドットコムに社名変更。自治体ドットコムサイトを運用（150万PV/月間）、現在、99%の自治体（1,712自治体）が会員として登録。2004年総務省「全国均衡のあるブロードバンド基盤の整備に関する研究会」委員として「次世代ブロードバンド構想2010」を取りまとめ、インフラ整備の礎を築く。観光戦略、産業振興、地域コミュニティ、中心市街地活性化等について、その実践理論と課題解決に定評あり。魅力あるふるさとづくりのコンサルタントとして全国各地を飛び回っている。



新たなビジネスチャンスと
ソーシャルメディアの可能性を探る



事例紹介

「観光維新 ICTで観光客を引きつける」

～ こうちユビキタス観光コンテンツアーカイブ ～

株式会社モデルビレッジ代表取締役 **小松 一之** 氏

「スマホで見ると見えない街が見えてくる」

～ 地元物産、観光スポット、おいしいお店をAR（拡張技術）で発信 ～

NPO札幌ITフロント理事 **村田 利文** 氏（ムラタオフィス株式会社 代表取締役）

「美唄ファンポータル「PiPa」は郷土の魅力がギッシリ！」

～ 美唄ファン（会員）を増やして地域資源を売り込む方法とは ～

株式会社美唄未来開発センター取締役営業部長 **山田 貴之** 氏

主催/ 総務省 北海道総合通信局

後援/ 北海道十勝総合振興局 帯広市 帯広商工会議所 十勝観光連盟 株式会社十勝毎日新聞社 株式会社北海道新聞社

参加申し込み・お問い合わせは裏面をご覧ください

講師プロフィール & 紹介事例

株式会社モデルビレッジ代表取締役 小松 一之 氏

プロフィール

1976年生まれ。高知県内建設コンサルタント会社において、市町村の振興計画策定、調査業務等に従事後、NPO事務局、経営コンサルタント(SOHO事業者)を経て、2006年株式会社Model Village設立、代表取締役に。2008年株式会社ライブポップ取締役就任。高知県内企業を中心に新規事業立ち上げ・運営支援の実績あり。その他、高知大学、高知工科大学における産学官連携支援や各種セミナー講師、NPO運営(2法人)なども手がける。得意分野は、ニーズ追求型マーケティング、ステークホルダー分析型マーケティングの実施など。

事例概要

高知の観光をより楽しく、より便利にできるよう、地元タウン誌をはじめとする地元の情報通が集めた様々なコンテンツを観光客に提供。滞在時間の延長につなげる。提供の仕掛けは、街中に設置したデジタルサイネージ、主要観光スポットのWiFiによる情報配信等。貸し出し用のiPod touchで、桂浜などの観光エリアに入ると史跡の解説や店舗情報など画面に表示。現在は、スマートフォンアプリ「こゆび for Android」を公開。高知県内の1000件を超える観光スポットや飲食店の情報を見ることが可能。

ムラタオフィス株式会社代表取締役 村田 利文 氏

プロフィール

1956年江別市生まれ。1981年、北海道大学大学院修士過程(電子工学)修了。専門は言語処理系。コンピュータサイエンスに加え、音響工学などを学ぶ。大学院在学中の1980年、札幌で同級生と株式会社B.U.Gを設立、取締役に。情報技術系の学生ベンチャーの走りとなる。1992年同社退職、ソフトウェア開発のビジョン・コーポレーションを設立、代表取締役に。1997年に合併、新会社、株式会社ソフトフロントの代表取締役となり現在最高技術顧問。その他に5社の役員を務め、プロジェクトマネージメントやオープン・イノベーションを事業領域として活躍中。

事例概要

AR技術(拡張現実技術)を使って、飲食店やコンビニなどの食産業情報をはじめ、歴史・文化施設情報などの観光スポット、イベント情報など街なかでスマートフォンをかざすだけでビジュアル的に情報を把握できるサービス「greenAR」を開発。greenARでは、Twitter表示もサポートし、飲食店や小売店が市民・観光客などと相互にコミュニケーションを図ることが可能。現在のサービスエリアは札幌、小樽、函館エリア。日本語のみならず、中国語の表示にも対応。

株式会社美唄未来開発センター取締役営業部長 山田 貴之 氏

プロフィール

1965年美唄市生まれ。2001年に北海道電子自治体プラットフォーム構想(HARP構想)のトリガーとなる電子自治体実証プロジェクト協議会において、住民サービスのビジネスモデルを検討。H19~21年度総務省地域ICT利活用モデル構築事業「美唄郷土情報による地域活性化モデル事業」で構築責任者を務める。現在、「広域連携型地域ポータルICT利活用モデル事業」のプロジェクトリーダー。システムエンジニアの傍ら、郷土の農産物・特産品など地域資源コンテンツの全国発信とマネタイズ化に多忙な日々を送りつつ、趣味の剣道で体を鍛えている。

事例概要

郷土の魅力的な地域資源である農産物・農産加工品を全国に向けて効果的に発信するため、投稿CMS、ブログ記事配信、農産品・特産品販売管理、簡易アンケート作成等が可能で「広域連携型地域ポータルシステム」を構築。現在、海山と食を有する留萌管内の市町村と、農と食を機軸とする美唄市が「美唄ファンポータルPiPa」で情報連携を図っている。そこに暮らす住民が、美唄に思いを寄せる人たちが、地域の広報として活動が期待できるコミュニティ形成の仕組み作りを目指す。文字どおり美唄ファンが増加中。月間PVは50万アクセスを超える。美唄ファンポータルPiPa <http://www.pipaai.jp/>

FAX 011-709-2482 / h-ict2012@soumu.go.jp

参 加 申 込 書

会社・団体名	
お名前	他 名
連絡先	TEL: FAX: E-mail:

会場の都合上、参加人数に限りがございます。申込多数の時はお断りさせていただく場合もありますので、あらかじめご了承下さいますようお願いいたします。

■お申し込み・お問い合わせ先

総務省 北海道総合通信局 情報通信部情報通信振興課 電話:011-709-2311(内線4718)

お問い合わせ時間は、土曜日、日曜日、祝日を除く、8時30分から12時まで、13時から17時までです

個人情報の取扱いについて

ご提出いただいた個人情報の取扱いにつきましては、以下のとおり細心の注意を払います。

- 1 利用目的: 利用目的は(1) 申し込まれた方の人数把握のため(2) 申込者多数の場合、お断りする方への連絡のため(3) 自然災害等による講演中止のお知らせ等、主催者から申し込まれた方への連絡を行うためとし、利用目的以外に使用することはありません。
- 2 ご提出いただいた個人情報の扱い: ご提出いただいた個人情報は、申し込まれた方の同意又は法令等に基づくものではない限り、いかなる第三者にも提供または開示いたしません。
- 3 ご提出いただいた個人情報の管理: ご提供いただいた個人情報は、適切・慎重に管理し、不正アクセス、紛失、改ざん、漏洩等の危険防止のため、技術及び管理の面から、適切かつ合理的な保護措置を行います。また本講演会終了後は適切に廃棄いたします。